

お知らせ

○6月の定例活動日：6月13日（日）、9時30分第二駐車場集合、ニホンジカ調査、広場整備、照度測定、ヒメコマツ植栽地の手入れ、野鳥調査、植物・食害調査など。草刈り鎌ある方は持参下さい。

活動の記録

5月16日（日）晴 参加は新井、安藤、鶴沢、占部夫妻、大賀、甲斐、福島、松本、真鍋、山口の会員16名とヒメコマツ研究グループの遠藤さん。シイタケ本伏せ、マダケ調査とマダケ保護網補修、物置の補修、野鳥調査、植物調査とグループに分かれて多彩な活動を行いました。新緑の中、作業後の風が心地よい1日でした。

ヒメコマツ研究グループ遠藤さんのご感想「枯れたものが無く、ホッとしています。夏の乾燥で枯れる場合があるので、今夏がそんな天候にならないことを祈っています。ツリーシェルターの中のヒメコマツは窮屈そうなので、今後どのような保護資材を利用するかを考えていきたいと思いました。」とのことでした。

○シイタケ本伏せ：3月に植菌したホダ木を常緑樹の日陰の多い巨木林からスタジイ林に向かう斜面に運び、ムカデ伏せ2列に本伏せ。運び人と伏せる人の呼吸ピッチリ、女性陣も頑張っ、またたく間にホダ木69本の運搬・伏せ込みを終えました。来年からの収穫が楽しみ。

○マダケ林調査：初夏の楽しみだったマダケの筍が、04-05年の2年連続で何者かに食い荒らされ収穫皆無だった。（後にセンサーカメラでシカの食害は確認したが、ノウサギや他の哺乳類も疑われる）その後、古い魚網やノリ網を利用したマダケ保護柵を設けたところ、柵内では順調に生育するようになった。発生本数と平均太さは左のとおりである。保護柵設置以来、発生本数は増えるものの平均太さが次第に細くなる傾向であったが、09年は本数も大幅に増加し平均太さも回復した。間もな

(生出年)	(本数)	(平均太さ)
06年	10本	6.1cm
07年	12本	5.3cm
08年	20本	3.9cm
09年	31本	5.1cm

くお目にかかる今年の筍の消長が気になるところである。今年のデータがそろると、そろそろ保護柵内で収穫可能な筍の本数や伐採本数などもおぼろげにわかるのではないかと期待している。

○マダケ保護柵補修：マダケ保護柵が2区画とも破損し、保護網が垂れ下がったり、補強棒が数箇所朽ちて折れていたのを補修した。補強棒には枯竹のほか柵内外の古竹を除伐して利用した。補強棒は1.4m～1.8mの高さに固定し、保護網は大小の網目を2重にしているものを棕櫚縄で直し直した。（根本記）

○物置の補修：かねてから懸案であった物置の改修と整理整頓を行いました。暑くなく寒くもない格好の作業日に恵まれ、一日で見違えるようにリフォームできました。構造はこれまでと同じで、しいたけ原木にならなかった枝などで簡単な屋根組みをつくった上にブルーシートの屋根を2重にかけ雨漏りを防ぐと同時に、屋根



新緑の心地よい天候に恵まれて



シイタケムカデ伏せを終えて



4年ぶりのマダケ保護柵補修

後部を高くし、開口部を設けて通風を確保しました。結果として、2階部分が広くなり、収納部分が格段に増加しました。さまざまな機材・資材が取り出しやすいよう置く場所を決めました。会員の皆さん 整理整頓し綺麗に使いましょう。なお入口上部には、干木（ちぎ：神社などにある交差する二本の木を屋根上に置いたもの）を模した屋根押さえがあり、中央には木製の鬼瓦が千年の森を見渡すという 素晴らしい造りとなりました。（神仏混交？かもしれませんが、ご利益がありそうです。）新井さん、根本さんほか大勢の方のご協力に感謝します。（鶴沢記）

○巨木林下層木調査；大賀先生は前回までの調査でナンバリング漏れとなっていた200以上の個体の調査・記録・ナンバリングされ、09-10期の調査を終了されました。

○植物調査；02年調査で記録されているカスミザクラとオオシマザクラの自生確認のため、植物班は5月5日の臨時活動日に続き、サクラ（枝・葉・果実）の標本採取と撮影を行いました。森林研究所から借用した高所鎌で10cmを超えるサクラ19個体の葉を採取。中央博物館に鑑定をお願いし、その結果は6月に報告します。

坂本文雄さんはホテイ岬に向かう西側歩道左にシュスラン（ラン科、右写真、千葉県要保護生物C）、ホテイ岬南端のホテイチク密林のなかにヤマナラシ（ヤナギ科）を見つけました。ヤマナラシ（山鳴らし）はポプラの仲間で、風にそよぐ葉音に因んだ名前の様です。シュス（繻子）ランは葉の手触りや色から別名ピロードラン、9月の開花が楽しみです。坂本さんは4月のヒナスミレ（B）に続く大ヒットで、4月以降豊英島に稀少種が4種増えたこととなります。



葉中央にクッキリ白線のシュスラン

ヒカゲツツジ(A)、植栽ヒメコマツ(A)、ヒナスミレ(B)、シュスラン(C)

5月5日臨時活動日、福島さんは禁断の岬崖下に降りてヒカゲツツジを観察。4月18日に中央博尾崎さんが確認された個体は、崖の一番上から幹を下向きにのびし崖の上から2~3mの位置に葉が着いていることを確認しました。また、ヒカゲツツジの崖から少し東の湿った崖（北岸）にイズノシマダイモンジソウを確認しました。



苔むす崖は植物の宝庫

5月16日、新緑の豊英島で沢山の花に出会いました。吊橋をわたってすぐ、若いホオノキの葉の陰に、可愛いキンランが一輪潜んでいました。森はエビネの花盛り、あちこちにササバギンラン、ニリンソウ、フタリシズカ、イチヤクソウなどひっそりと咲いていました。最も印象に残ったのは、ハンショウズルの花です。ホテイ岬にはホテイチクの筍が保護柵の中に2本頭を出していました。（甲斐記）

○動物調査；5月5日臨時活動日に巨木林区域でニホンジカ1頭（雌雄不明）を目撃した。また、吊橋終端島入口に5月5日設置したセンサーカメラに、アライグマ（2頭）、ハクビシン、ニホンジカが映っていました。アライグマは豊英島では初確認です。

最近、落ち葉を掻いたような跡が目立つのはもしかしたらアライグマの仕業かもしれません。アライグマは現在、特定外来生物として防除対象になっていて、君津市環境衛生課への報告と何らかの対策が必要と思われます。（福島記）



アライグマ2頭吊橋渡り入林

尻尾の横縞模様が特徴

いずれも2010年5月7日午前3時28分

食べ物の残りや生ゴミなどアライグマの餌になるものを島に残さないよう気を付けましょう！

○野鳥調査；今年度から豊英島周辺に生息する鳥類の調査を始めました。今後は活動日に島へ入る都度、一定のコースを歩いて調査する予定です。また、作業中に確認できた種も記録に残します。

調査結果を「豊英島 鳥類記録」表に記載します。表は種類ごとにv印 (visual)と数字で目視確認した羽数と、声を2種類に分けて記録しています。cは地鳴き (call)でsは囀り (song)です。声は聞こえても何羽で鳴いているか分からないので、数は示していません。5月5日と16日の調査、観察の特記事項は次の通りです。5月5日禁断の岬急斜面のヒメコマツ植栽地前方の視界が開けた辺りで、約40羽のトビの乱舞が見えました。

昭和40年代から清和県民の森一帯でトビが急増しましたが、これだけの数が一度に見られるのは珍しい事です。

5月16日お昼休みの一時を利用して、希望者による鳥の観察を行いました。ホテイ岬の対岸崖下の水辺でカワウ12羽が羽を休めていました。私は豊英湖でカワウを見たのは初めてです。10年以上前からカワウが増え、各地で漁業被害が問題になっていますが、ここまで来たかの感があります。

豊英島 鳥類観察記録(凡例 v目視羽数 c地鳴き s囀り)

種名	科名	2010年5月5日	2010年5月16日
カワウ	ウ科		v13
アオサギ	サギ科	v1	
トビ	ワシタカ科	v48 c	v5 c
サシバ	ワシタカ科	c	
コジュケイ	キジ科	c	
キジバト	ハト科		s
カワセミ	カワセミ科		c
コゲラ	キツツキ科	c	c
キセキレイ	セキレイ科	v1	
ヒヨドリ	ヒヨドリ科	v2 c	v2 c
ウグイス	ウグイス亜科	s	s
センダイムシクイ	ウグイス亜科	s	
エナガ	エナガ科	c	c
ヤマガラ	シジュウカラ科	c s	c s
シジュウカラ	シジュウカラ科	v1 c s	c s
メジロ	メジロ科	c s	c s
カワラヒワ	アトリ科	c	
シメ	アトリ科	c	v4
カケス	カラス科		c
ハシボソガラス	カラス科	v3	c
ハシブトガラス	カラス科	v2	c
合計確認種数		17種	15種

今年もトビのヒナが2羽孵りました

5月5日初確認、孵化日の違いがあるらしく、2羽の羽根色に濃淡の差がありました。

5月16日、トビの雛は2羽いましたが、殆ど動かず元気が無いようでした。親鳥も見当たらず、餌やりの場面も見られませんでした。異変が無ければ良いのですが・・・。

(坂本文雄記)